



2021年（令和3年）7月21日、元茨木川緑地リ・デザインの今後の展開等について、公開ディスカッション（内容を後日公開）をオンラインにて開催しました。

■コーディネーター（敬称略）

加我 宏之／大阪府立大学大学院生命環境科学研究科緑地環境科学専攻・緑地計画学 教授

■登壇者（敬称略）

石原 一彦／立命館大学政策科学部 教授

武田 史朗／千葉大学大学院園芸学研究院ランドスケープ・経済学講座 教授

岡田 直司／茨木市建設部公園緑地課 課長

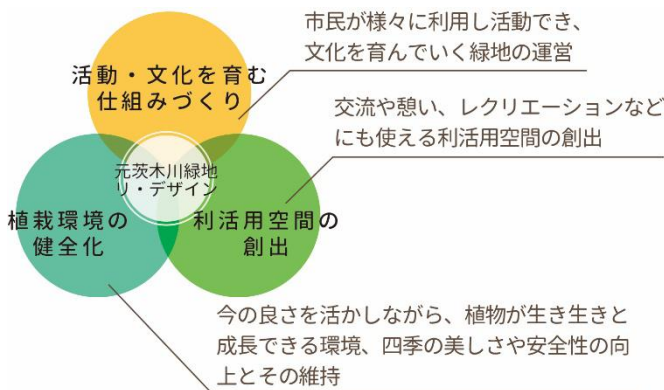
■これまでのリ・デザインの取組みと市民アンケート結果の紹介

「元茨木川緑地リ・デザイン計画」（平成30年策定）では、3つの基本方針として「活動・文化を育む仕組みづくり」、「利活用空間の創出」、「植栽環境の健全化」を掲げています。これらの方針毎のこれまでの取組みについて紹介しました。

また、2021年6月に実施した「元茨木川緑地アンケート調査」の結果についても紹介しました。

【紹介スライド（抜粋）】

【元茨木川緑地リ・デザインの基本方針】



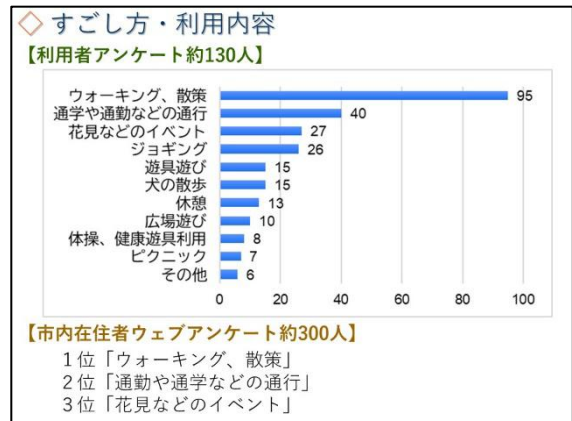
◇活動文化を育む仕組みづくり

冬：落ち葉クラフト体験

冊子、動画

モトイバさんぽ
～夏の木陰を楽しむ～

モトイバさんぽ
視聴YouTubeページ



■ディスカッションの主な意見

滞在利用を増やす活動誘発型の整備を

- ・現在の元茨木川緑地は、通行など線形の利用に利用形態が固定されているのではないかと。今後は、滞在利用を増やしていけるとよい。
- ・新施設とあわせた元茨木川緑地の整備では、活動誘発型の拠点整備が期待できる。例えば、幼稚園や大学生など具体的な対象を想定した場所の整備ができるとよい。

日常的な風景を共有し利用を育む

- ・元茨木川緑地の日常的な風景、いいところをもっと発信し、市民と共有していくことができれば、こんな場所を使ってみたいというふうに、次の活動が育まれるのではないかと。

大人のパーソナルユースが楽しめる元茨木川緑地に

- ・コロナ禍で、1人や2人の少人数で過ごせる場所が求められるようになった。元茨木川緑地も、大人が1人や2人で過ごせるパーソナルユースができる場所になるとよい。
- ・例えば、持ち運びができる椅子を自分で持ってきて、元茨木川緑地のここに座ると気持ちが良いと思う場所に座って楽しむ「チェアリング」ができるとよいのではないかと。
- ・元茨木川緑地内を自転車が通らなくなり、皆が活動している様子を眺めながら、1人でもベンチや椅子に座って入れる場所になってほしい。

世界に誇れる元茨木川緑地

- ・9世紀後半から20世紀前半にかけて、水と緑のネットワークをつくろうと世界各国が線形の緑地をいかに確保するかを考えていた。茨木市で、昭和40年初頭から元茨木川緑地が整備されたことは、世界に誇るべきことである。
- ・まちなかを南北に通る緑の軸となっている元茨木川緑地のような場所は、日本でもなかなか見られない。

様々なクラブ活動のような主体を増やそう

- ・次の一歩として、日常的な管理主体、利用主体の組織化が考えられる。例えば、元茨木川緑地での花壇づくりのクラブなど、クラブ活動のような主体がいくつもでき、それを市がサポートできるしくみがあるとよい。

いろんなことを社会実験でやってみる

- ・全国的に、社会実験をやってみようという動きがある。元茨木川緑地でも、「やってみる」ということを繰り返していけるとよい。
- ・これまでは難しかったことでも、新施設の整備などが進んでいる今は、「やってみる」ということができるタイミングではないかと。



写真上から順に、加我教授、石原教授、武田教授、岡田課長